

平成 18 年 7 月 20 日からの集中豪雨災害

さつま町

1 経 過

7 月 18 日から降り始めた雨は積算で、さつま柏原観測所で 735mm、紫尾山で 1,237mm を観測した。(時間最大 さつま柏原：7/22 9～10 時 87.5mm 紫尾山 59.5mm)

川内川の上流部でも相当量の降雨を観測しており、鶴田ダム管理所からの放流通知を受け、本町では、7 月 21 日(金) 18:00 に「災害警戒本部」を設置し、川内川添いの低いところへの浸水に警戒を強めると共に、防災無線等を通じ警戒を呼びかけた。

川内川の水位は日ごとに上昇し、宮之城水位観測所では 7 月 21 日 20:40 に警戒水位を突破し、22 日 9:00 ごろまでは、警戒水位付近で推移していたが 10:20 には危険水位を突破、同じく 11:30 には計画高水位を突破した。

警戒水位付近から計画高水位に達するまで、2 時間程度しかなく、急激に水位が上昇したためその対応に追われた。

町では、10:00 に「災害対策本部」を設置し、併せて町内の避難所を開設すると共に、11:00 には、虎居地区の 308 世帯 711 人に避難勧告を発令して避難を呼びかけた。川内川の急激な水位の上昇に伴い、12:00 には虎居地区内の 476 世帯、1,125 人に追加して避難勧告を発令。

11:30 の計画高水位の突破に伴い、浸水区域が広範囲にわたる危険性があるため、宮之城屋地の川原地区も含め、911 世帯、2,124 人に避難指示を発令。また、川内川沿いの低い箇所については、避難されるよう勧告した。

浸水区域内には建物に取り残された方も多く、被害が甚大に及ぶ恐れがあり、町は 11:45 自衛隊(川内駐屯地)に対し人命救助のため災害派遣を要請。消防関係機関、警察、自衛隊にて建物内に取り残された方の救出に全力を尽くした。

○浸水地域による救出者 63 人

(自衛隊による救出者 28 人 消防機関等における救出者 35 人)

2 鶴田ダムの放流量

最大流入量 4,042 m³ (7/22 15:30)

最大放流量 3,571 m³ (7/22 18:30)

※参考 昭和 47 年災害時 2,260 m³ (S47.7.6) …… 湯田温泉街が流出した災害

3 川内川の水位(宮之城水位観測所)

【水位の設定：指定水位 3.10 警戒水位 4.60 危険水位 6.60 計画高水位 8.74】

○ 指定水位 7/20 23:50

○ 警戒水位 7/21 20:40

○ 危険水位 7/22 10:20

○ 計画高水位 7/22 11:30 最高水位 7/22 18:50 11.66m